

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**学校の現状**

学区内には、足立区生物園をはじめ自然豊かな公園が多くあり、区内では比較的自然が豊かな地域である。区立保育園や幼稚園の園児や区立中学校生徒との交流活動とともに、教職員相互の交流研修を行っている

児童数は 592 名 18 学級、家庭数は 474 家庭である。日本語教室（平成 18 年度から）特別支援教室「わかば」（平成 28 年度新設）が設置されている。児童は落ち着いて学習活動に取り組み、数年来継続してきた基礎学力の向上の組織的方策の効果が現れ、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られている。

教員の年齢層は、若手教員から経験豊富な教員までバランスが良い。授業にも行事等にも熱心に取り組み、児童を育て成果を出している。今年度も引き続き授業力のさらなる向上と、一人一人の教員が児童の実態や学校の課題を深く理解し、組織の一員として共通実践し続ける教師集団・学校文化の創造を目指す。

保護者・地域の学校への協力度は比較的高く、概ね好意的に支援をいただいている。PTA 組織・開かれた学校づくり協議会・桜友会 (PTA0B 会) 等が、長年様々な面から学校を支えていただいている。これら地域の応援隊と連携を密にとり、児童の現状と課題に応じた新しい方策や連携の在り方を検討し、改善を図る。

学力向上

<成果>

○習熟度別指導や学習のつまずきにに応じた補習指導に組織的に取り組むことを通して、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られた。

<課題>

○学年間、学級間でぶれのない授業規律の徹底を通して、より落ち着いた学びの態度形成を図ること。

○生活科・社会科・理科の校内研究等を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたよりわかる授業・楽しい授業づくりに取り組むこと。

心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

<成果>

○認知したいじめや生活指導上の児童の実態等に関して、十分な情報共有と教職員の連携により迅速に問題に対応する組織が確立されつつある。

<課題>

○遅刻者の減少と望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭を啓発し連携すること。

○特別支援教育校内委員会を活性化し、特別支援教室と各学級の連携を密接にして指導の整合性と一貫性を確保すること。

体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

<成果>

○体育課指導の充実、休み時間等の活用等を通して、児童の十分な運動量を確保した。

○始業前・休み時間等を活用したなわとび・持久走に児童が意欲的に参加し、目当ての達成に向けて努力した。

<課題>

○持久力や投力に課題が残る。体育科指導と休み時間の過ごし方を工夫し、児童の体力向上を図る。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 学力向上(基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、確かな学力を身につけさせる)**

○校内研究活動等の充実・課題共有した小中連携活動の充実

○個に応じたわかる指導の充実

○基礎学力上配慮を要する児童への個別指導の充実

重点的な取組事項－2 心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

○望ましい生活習慣の確立

○児童相互の円滑な人間関係構築・いじめ等の早期発見と早期解決

○不登校の未然防止と組織対応

○特別支援教室と学級との連携推進(発達障害等の理解推進)

重点的な取組事項－3 体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

○オリンピック・パラリンピック教育の推進と充実

○体力向上(持久力・投力)

○健康づくりに関する児童と保護者の意識向上

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 学力向上(基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、確かな学力を身につけさせる)

- ◎パワーアップタイム、放課後学習が定着し、基礎的基本的な学習内容の定着について教員の意識が向上した。
- ◎かけ算九九テストなどを通して、算数の基礎的内容の定着が図られた。
- ◎校内授業研究・小中連携授業研究とも、外部講師や管理職が講師となり、新指導要領改訂の趣旨について研修を深めることができた。
- 落ち着いた雰囲気の中で授業を進めることができたが、学習規律の徹底については引き続き指導を継続する必要がある。
- 家庭学習の充実に向けて、見通しをもてる学習課題の工夫や家庭学習手引きの活用などが課題である。
- 校内授業研究・小中連携授業研究とも、主体的に問題を解決する児童生徒の育成を目指し、活用力の育成に向けて教材研究を深めることが課題である。

重点的な取組事項－２ 心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

- ◎認知したいじめの実態等に関して、いち早い情報共有と教職員の連携により素早く対応した。
- ◎特別支援コーディネーターを中心に、児童に関する情報共有を校内外で活発に行いきめ細かく児童や保護者のニーズに対応した。
- ◎落ち着いた雰囲気の中で、一年間の学校生活を実現することができた。
- 特別活動の充実によって、充実感・満足感を感じる学校生活の実現を図ることが課題である。
- 取組について保護者・地域に向けて積極的に情報発信していくことが課題である
- より積極的な保護者の啓発により理解と協力を得て、登下校時のマナー、交通ルール遵守の指導徹底を図ることが課題である。
- 専門機関等と連携し、不登校傾向児童に対する個別のケアを継続することが課題である。

重点的な取組事項－３ 体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

- ◎歯科受診率が前年度比わずかではあるが向上した。
- ◎区の出組を生かしながら、食育についての校内掲示や放送などを充実させることができた。通年残菜率 2. 1%
- 一流選手をゲストとして招くなどより積極的な取組みが課題である。
- 専門家から教員が研修を受けるなど、投力についての指導力向上を図ることが課題である。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

保護者地域の方々のご支援に支えられて、子供たちは落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組むことができました。皆様に心から感謝申し上げます。

今年度も引き続き、児童の基礎的・基本的な学習内容の確実な定着に向けて組織的に取り組みました。平成 30 年度 2 月の時点で、現学年の学習内容の定着については国語（ ）%、算数（ ）%です。前年度同時期の調査結果（国語 83. 7%、算数 85. 0%）に比べて学習の定着が（ ）しています。すべての児童に確かな基礎学力をつけさせるとともに、学ぶ楽しさを味わえる楽しい学校づくりに取り組んでまいります。

また、コミュニケーション教室やそだち指導、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと有効に連携して、「成長を実感できる」教室づくり、学校づくりに取り組んでまいります。

今回、学校評価でご指摘をいただいた体力向上にも、外遊びの奨励やゲストティーチャーの活用などを通して積極的に取り組んでまいります。今後ご支援のほど、よろしくお願いします。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎：十分に達成 ○：おおむね達成 △：達成せず ●：課題が残る＞

重点的な取組事項－1 学力向上(基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、確かな学力を身につけさせる)

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
国語・算数の基礎的・基本的な学習内容の定着	2月予備調査(現学年内容) 全学年 国語 80%以上 算数 85%以上	2月予備調査 学年全体 国語 79.7% 算数 81.2%	達成基準に僅かに及ばなかったが、1年間の取組を通して、児童の基礎学力が向上した。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					
わかる授業・楽しい授業の実現に向けた校内研究と小中連携研究の充実	校内授業研究 授業6回以上 瀏江小・瀏江中 連携授業研究 6回以上	・社会・理科における足立スタンダードの活用と定着 ・各研究授業で「身に付けさせたい力」を明確にした授業づくりと評価	・区内研究授業8回実施。小中連携研究8回実施(分科会・全体会) ・7分科会ごとの研究授業各3回実施	・新指導要領改訂の趣旨、問題解決的学習展開について理解を深めた。 ・身に付けさせたい力と指導の意図を明確にした授業づくりについて研修を深めた。	○

重点的な取組事項－2 心の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
充実感・満足感の高揚と、自己肯定感(低学年)・自己有用感(高学年)の育成	児童・保護者による意識調査、肯定的回答 85%以上	児童アンケート結果肯定的回答 自己有用感(高学年) 63.9%	特別活動の充実によって、充実感・満足感を感じる学校生活の実現を図ることが課題。 心の健康づくりに向けた取組について保護者・地域に向けて積極的に情報発信していくことが課題。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
望ましい生活習慣の確立	児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 90%以上 遅刻児童 1.5%未満	・「生活調べ」実施結果の活用 ・学校だより、メール配信システム等を活用した保護者の啓発	・児童・保護者アンケート関連項目肯定的回答 (児童) 挨拶できる 80.8% ルール遵守 86.2% (保護者) 挨拶できる 80.0% ルール遵守 81.0%	・健康管理や登下校の安全確保について保護者啓発に向けた情報発信多数。 ・遅刻対策を含め登下校時、交通ルールの遵	取組○ 成果△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
			・前年度に比べれば遅刻する児童は減少しているが、十分な結果が得られていない。	守について、指導を徹底するとともに、保護者を啓発することが課題。	
児童相互の円滑な人間関係構築いじめ等の早期発見と早期解決	90%児童が友人関係に満足いじめ等の発生の最小化	・いじめ防止基本方針の徹底(日々対応) ・教育相談活動の活発化(早期対応)	児童自己評価で「友達と仲良く過ごしている」と肯定的な回答は 93.7% 認知したいじめ 95% 解消	認知したいじめの実態等に関して、いち早い情報共有と教職員の連携により素早く対応した。	◎
不登校の未然防止と組織対応	不登校児童を前年比 50%に減少	・教職員間連携と組織的対応の継続	不登校児童の減少前年比 0%	引きこもり等による不登校児童4名について、SCやSSWと連携し最大限努力した。3名は十分とは言えないが改善がみられる。	○
特別支援教室と学級との連携推進(発達障害等の理解推進)	学級における指導と特別支援教室の整合性と一貫性の確保に向けた校内委員会(年間10回以上)	・校内委員会での情報交換と指導方針の共有 ・発達障害等に関する校内研修 ・ユニバーサルデザインの導入・活用	・校内委員会(対象児童の課題に応じたケース会議を含む)10回以上実施。 ・校内研修(管理職による研修、特支コーディネーターによる研修)多数実施。	・対象児童に関する情報共有は、特別支援コーディネーターを中心に、校内外で活発に行い、きめ細かく児童や保護者のニーズに対応した。	◎

重点的な取組事項ー3 体の健康づくり(心も体も健全育成を図る)

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
健康づくりについての意識の向上と体力向上(持久力・投力)	児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 90%以上	児童・保護者アンケート結果肯定的回答 休み時間の外遊び 90.1% 体力向上について 肯定的な保護者 91.0%	運動集会や外遊びの奨励、保護者の啓発など積極的に取組んだ。体力調査や受診率の向上には結びつかなかった。	取組○ 成果△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
オリンピック・パラリンピック教育の推進と充実	児童・保護者による意識調査関連項目で肯定的回答 90%以上	・運動選手による実技指導や講演会等の実施	保護者アンケート結果肯定的回答 91.0%	運動の専門家による授業2学年4回実施。一流選手をゲストとして招くなどより積極的な取り組みが課題。	△
体力向上(持久力・投力)	体力調査 20Mシャトルラ	・授業・行事・休み時間における運動量	区の平均値を上回った学年は、ソフトボー	専門家から投げ方の指導を	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	ン・ソフトボール投げ 区の 平均値以上	の確保と活動の工夫	ル投げで4年生男子	受け、フォームの改善は見られたが、投力の向上には至らず。専門家から教員が研修を受けることを検討する。	
健康づくりに関する児童と保護者の意識向上	・歯科受診率 70%以上 ・児童・保護者による意識調査 食育に関する項目で肯定的回答 80%以上	・メール配信システム等の活用による保護者の啓発 ・栄養士・食育リーダー・養護教諭等の連携による食育指導の充実	・歯科受診率 45% ・健康に関する児童・保護者アンケート結果肯定的回答 児童 87.6% 保護者 90.0% ・食育に関する児童・保護者アンケート結果肯定的回答 児童 80.1% 保護者 91.0% ・もりもり給食ウィーク平均残菜率 0.6% 年間残菜率 2.1%	・受診勧告書に基づく受診促進を通年で実施（保護者来校時の校内放送・便り・メール配信） ・食育リーダーと栄養士の連携による校内掲示や放送の充実	取組◎ 成果○

3. 学校活動全般について

基礎学力の定着に向けて、教員に「習得主義」の定着を図ることができた。また、教職員が一丸となって基礎学力の定着に取組み、児童の学力に一定の成果が見られた。今後も組織的・計画的に児童の学力向上に努めるとともに、よりわかる授業・より楽しい授業の実現に向けて、ベテラン教員の知見を若手教員に受け継ぎ、学校全体としての指導力の向上に努めていく。また、主体的に問題を解決する児童の育成を目指し、活用力の向上に向けて授業研究・教材研究を充実する。

いじめ防止・対応、不登校の未然防止・対応、生活指導面で、教職員間の情報共有と活用、迅速で丁寧な取組みを通し、安全で安心な学校づくりに取り組むことができた

「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立湊江第一小学校 学校長 大森 千里

		アクションプラン	達成目標(=数値) ＜いつまで・何を・どの程度＞	具体的な取り組み内容 ＜誰が、何を、どのように＞	実施結果	コメント・課題	達成度 (◎○△●)
1	新規	教室環境と学習規律の共通化	・4月下旬、机上整理・教室掲示の実施率100% ・前期終了までに学習規律80%定着。年度末95%	・各教室で机上整理、教室内掲示の標準化 ・各学級で「渕一の子の学習のきまり」を確認し担任・専科等より繰り返し指導する。 ・ユニバーサルデザインの導入・活用	・机上整理約90%実施、刑事の標準化100% ・学習規律定着率 86.2%	机上・教室環境整理については、個別に指導・助言し改善を図る。学習規律の定着に向けて、一年を通して指導の徹底に向けて取り組んだ。	○
2	継続	朝学習 パワーアップタイム	正答率70%以上	【指導体制】担任・専科教員 【取組のねらい】学習内容の復習・定着を図る。 【使用教材】各学年で年度当初検討する。国語・算数とも、読み取る力を高める教材を選ぶ。	実施率 85%以上。諸行事等により実施できない時があった。	教員の意識も高まり、実施の実際は安定している。活用力の育成に向けた教材を充実させることが課題。	○
3	継続	放課後学習	正答率85%以上	【指導体制】月・金は学年体制、火・木は各学級学年担当の専科教員が入り担任不在時カバーする 【取組のねらい】学習のつまずき解消 【使用教材】東京ベーシックドリル、次へのステップ等々から児童のつまずき解消に適した教材を選択する。	実施率 90%以上。諸行事等により実施できない時があった。	基礎・基本の徹底に向けて教員の意識が高まり、より安定した放課後学習の実施が実現している。学習内容を効果的に定着させるための教材の充実が課題。	◎
4	改善	かけ算九九テスト	年度末までに、各学年かけ算九九完全習得	【指導体制】担任 【取組のねらい】かけ算九九の完全定着 【方法等】担任が採点し学力向上委員会が集計する。75%未満の児童は算数少数指導担当者が補習する。6年生が指導を補助する。2年生については、1月以降専科教員等が授業を支援し個別の対応を図る。	算数少数指導教員が中心となり、2年生以上の各教室完全実施。九九の定着率96%	第2学年時の九九指導の徹底、定着が課題。保護者の協力を得て家庭学習の充実を図ることが方策の一つとして考えられる。	取組◎ 成果○
5	継続	夏季学習教室	プリントの正答率各児童20%向上	【指導体制】・担当する教員各学年6名程度(教員1名位に対して児童1～2名)・湊江中学校から中学生3名程度をリトルティーチャーとして協力してもらう(1日) 【取組のねらい】学習のつまずき解消 【使用教材】東京ベーシックドリル、次へのステップ等々から児童のつまずき解消に適した教材を各	左記指導体制による取組完全実施。対象児童の正答率が優位に上昇。	落ち着いた雰囲気の中で実施できた。無届け欠席がみられ、各家庭での理解と協力が課題である。 また、夏季休業明けに定着度が下がる傾向が認められる。休業明けの放課後学習と指導内容の整合を図ることが課題。	取組◎ 成果○

				学年会で検討し決定する。			
6	継続	渕一寺子屋	定着度テスト正答率 10% 向上	【指導体制】 校長・副校長 専科教員 【取組のねらい】 学習のつまずき解消 【使用教材】 東京ベーシックドリル、次へのステップをもとに、児童の実態に応じて選択する。	実施率 100% 定着度 10% 以上向上	夏季学習教室の後に設定された時間であるにもかかわらず、目標を持って地道に取り組んだ児童が多数。休業明けのアフターケアは上欄に同じ。	取組◎ 成果○
7	新規	漢字振り返りプリント	一斉漢字テストで平均正答率 75% 以上	【指導体制】 家庭学習 【取組のねらい】 既習漢字の定着 家庭学習の習慣化 【使用教材】 自作プリント	実施率 50% 各学年の漢字定着率概ね 85%	など、学年ごとに学習習慣として確立した漢字ドリルの復習などの充実を図り、家庭学習の量的適正化を検討した結果、当期休業時には実施せず。	取組○ 成果○